

東海国立大学機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領における  
岐阜大学の留意事項

東海国立大学機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領（以下「対応要領」という。）第9条及び第10条に定める留意事項は、以下のとおりとする。

第1 不当な差別的取扱いに関する例（第9条関係）

対応要領第9条のとおり、不当な差別的取扱いに相当するか否かについては、個別の事案ごとに判断されることとなるが、正当な理由がなく、不当な差別的取扱いに該当すると考えられる例及び正当な理由があるため不当な差別的取扱いに該当しないと考えられる例は、次のとおりである。

なお、ここに記載する内容はあくまでも例示であり、これらの例だけに限られるものではないこと、正当な理由があり不当な差別的取扱いに該当しない場合であっても、合理的配慮の提供を求められる場合には別途の検討が必要であることに留意すること。

（正当な理由がなく、不当な差別的取扱いに該当すると考えられる例）

- 一 障害があることを理由に受験を拒否すること
- 二 障害があることを理由に入学を拒否すること
- 三 障害があることを理由に授業受講を拒否すること
- 四 障害があることを理由に研究指導を拒否すること
- 五 障害があることを理由に実習、研修、フィールドワーク等への参加を拒否すること
- 六 障害があることを理由に事務窓口等での対応順序を劣後させること
- 七 障害があることを理由に式典、行事、説明会、シンポジウムへの出席を拒否すること
- 八 障害があることを理由に学生寮への入居を拒否すること
- 九 障害があることを理由に施設等の利用やサービスの提供を拒否すること
- 十 手話通訳、ノートテイク、パソコンノートテイクなどの情報保障手段を用意できないからという理由で、障害のある学生等の授業受講や研修、講習、実習等への参加を拒否すること
- 十一 試験等において、合理的配慮を受けたことを理由に評価に差をつけること
- 十二 障害の種類や程度、サービス提供の場面における本人や第三者の安全性などについて考慮することなく、一律にあるいは漠然とした安全上の問題を理由に学内の施設利用を拒否又は制限すること
- 十三 人的体制、設備体制が整っており、対応可能であるにもかかわらず、障害があることを理由に診療・入院・調剤等を拒否すること
- 十四 診察などを後回しにすること、サービス提供時間を限定すること
- 十五 診察室や病室の制限を行うこと
- 十六 医療の提供に際して必要な情報提供を行わないこと
- 十七 本人（本人の意思を確認することが困難な場合は家族等）の意思に反した医療の提供を行うこと

## 十八 本人を無視して、介助者や付き添い者のみに話しかけること

(正当な理由があるため、不当な差別的取扱いに該当しないと考えられる例)

- 一 実習において、アレルゲンとなる材料を使用するなど、実習に必要な作業の遂行上具体的な危険の発生が見込まれる障害者に対し、アレルゲンとならない材料に代替し、別の部屋で実習を設定すること
- 二 通級による指導、特別支援学級において、特別の教育課程を編成すること
- 三 手続を行うため、障害者本人に同行した者が代筆しようとした際に、必要な範囲で、プライバシーに配慮しつつ、障害者本人に対し障害の状況や本人の手続の意思等を確認すること

## 第2 合理的配慮に関する例（第10条関係）

合理的配慮は、不特定多数の障害者等の利用を想定して事前に行われる建築物のバリアフリー化、必要な人材の配置、情報アクセシビリティの向上等の環境の整備を基礎として、個々の障害者に対して、その状況に応じて個別に実施される措置である。その内容は、対応要領第10条のとおり、障害の特性や社会的障壁の除去が求められる具体的状況等に応じて異なり、多様かつ個別性が高いものであり、当該障害者が現に置かれている状況を踏まえ、社会的障壁の除去のための手段及び方法について、必要かつ合理的な範囲で、柔軟に対応する必要があるが、例としては、次に掲げるとおりである。

なお、これらの例はあくまでも例示であり、ここに記載する例以外であっても合理的配慮に該当するものがあること、また、個別の事案ごとに判断することが必要であることに留意すること。

(合理的配慮に当たり得る物理的環境への配慮の例)

- 一 車椅子利用者のためにキャスター上げ等の補助をし、又は段差に携帯スロープを渡すこと
- 二 図書館やコンピュータ室、実験・実習室等の施設・設備を、他の学生等と同様に利用できるように改善すること
- 三 移動に困難のある学生等のために、普段よく利用する教室に近い位置に駐車場を確保すること
- 四 配架棚の高い所に置かれた図書やパンフレット等を取って渡したり、図書やパンフレット等の位置を分かりやすく伝えたりすること
- 五 障害特性により、授業中、頻回に離席の必要がある学生等について、座席位置を出入口の付近に確保すること
- 六 移動に困難のある学生等が参加している授業で、使用する教室をアクセスしやすい場所に変更すること
- 七 易疲労状態の障害者からの別室での休憩の申し出に対し、休憩室の確保に努めるとともに、休憩室の確保が困難な場合、教室内に長いすを置いて臨時的休憩スペースを設けること
- 八 視覚障害者からトイレの個室を案内するよう求めがあった場合に、求めに応じてトイ

レの個室を案内すること、その際、同性の役職員がいる場合には、障害者本人の希望に応じて同性の役職員が案内すること

九 学生等が医療的ケアを必要とする場合、障害の状態や特性に配慮しながら、医療的ケアの実施のための別室等を用意するなど、衛生的な環境を提供すること。

(合理的配慮に当たり得る意思疎通の配慮の例)

- 一 授業や実習、研修、行事等のさまざまな機会において、手話通訳、ノートテイク、パソコンノートテイク、補聴システムなどの情報保障を行うこと
- 二 ことばの聞き取りや理解・発声・発語等に困難を示す学生等のために、必要なコミュニケーション上の配慮を行うこと
- 三 シラバスや教科書・教材等の印刷物にアクセスできるよう、学生等の要望に応じて電子ファイルや点字・拡大資料等を提供すること
- 四 聞き取りに困難のある学生等が受講している授業で、ビデオ等の視聴覚教材に字幕を付与して用いること
- 五 授業中教員が使用する資料を事前に提供し、事前に一読したり、読みやすい形式に変換したりする時間を与えること
- 六 事務手続きの際に、役職員や支援学生が必要書類の代筆を行うこと
- 七 障害のある学生等で、視覚情報が優位な者に対し、授業内での指示や事務的な手続き・申請の手順を文字やイラスト等で視覚的に明示し、わかりやすく伝えること
- 八 間接的・抽象的な表現が伝わりにくい場合に、より直接的・論理的な表現を使って説明すること
- 九 授業中のディスカッションに参加しにくい場合に、発言しやすいような配慮をしたり、テキストベースでの意見表明を認めたりすること
- 十 入学試験や定期試験において注意事項や指示を、口頭で伝えるだけでなく文書や黒板に書いて示すなど、視覚的な情報として伝達すること
- 十一 災害時における情報伝達及び避難のサポートについて十分配慮すること
- 十二 外見上、障害者であると分かりづらい患者（難聴者など）の受付票にその旨がわかる連絡カードなどを添付するなど、スタッフ間の連絡体制を工夫すること
- 十三 診療の予約時などに、患者から申し出があった自身の障害特性などの情報を、スタッフ間で事前に共有すること

(ルール・慣行の柔軟な変更の例)

- 一 入学試験や定期試験において、個々の学生等の障害特性に応じて、試験時間を延長したり、別室受験や支援機器の利用、点字や拡大文字の使用、休憩時間の調整等を認めたりすること
- 二 成績評価において、本来の教育目標と照らし合わせ、公平性を損なわない範囲で柔軟な評価方法を検討すること
- 三 外部の人々の立ち入りを禁止している施設等において、介助者等の立ち入りを認めること
- 四 大学行事や講演、講習、研修等において、適宜休憩を取ることを認めたり、休憩時間

を延長したりすること

五 移動に困難のある学生等に配慮し、車両乗降場所を教室の出入り口に近い場所へ変更すること

六 教育実習等の学外実習において、合理的配慮の提供が可能な機関での実習を認めること

七 教育実習、病棟実習等の実習授業において、事前に実習施設の見学を行うことや、通常よりも詳しいマニュアルを提供すること

八 外国語のリスニングが難しい学生等について、リスニングが必須となる授業を他の形態の授業に代替すること

九 実験・実習等において、障害の特性により指示の伝達や作業の補助等が必要となる場合に、特別にティーチングアシスタント等を配置すること

十 IC レコーダー等を用いた授業の録音を認めること

十一 授業中、ノートを取ることが難しい学生等に、板書を写真撮影することを認めること

十二 不随意運動等により特定の作業が難しい障害者に対し、役職員や支援学生を配置して作業の補助を行うこと

十三 感覚過敏等がある学生等に、サングラス、イヤーマフ、ノイズキャンセリングヘッドフォン等の着用を認めること

十四 体調が悪くなるなどして、レポート等の提出期限に間に合わない可能性が高いときに、期限の延長を認めること

十五 教室内で、講師や板書・スクリーン等に近い席を確保すること

十六 履修登録の際、履修制限のかかる可能性のある選択科目において、機能障害による制限を受けにくい授業を確実に履修できるようにすること

十七 入学時のガイダンス等が集中する時期に、必要書類やスケジュールの確認などを個別に行うこと

十八 病気療養等で学習空白が生じる学生等に対して、ICT を活用した学習活動や補講を行う等、学習機会を確保できる方法を工夫すること

十九 授業出席に介助者が必要な場合には、介助者が授業の受講生でなくとも入室を認めること

二十 視覚障害や肢体不自由のある学生等の求めに応じて、事務窓口での同行の介助者の代筆による手続きを認めること

二十一 日常的な医療的ケアを要する学生等に対し、本人が対応可能な場合もあることなどを含め、配慮を要する程度には個人差があることに留意して、医療機関や本人が日常的に支援を受けている介助者等と連携を図り、個々の状態や必要な支援を丁寧に確認し、過剰に活動の制限等をしないようにすること

二十二 慢性的な病気等のために他の学生等と同じように運動ができない学生等に対し、運動量を軽減したり、代替できる運動を用意したりするなど、病気等の特性を理解し、過度に予防又は排除をすることなく、参加するための工夫をすること

二十三 読み・書き等に困難のある学生等のために、授業や試験において読みやすい字体による資料を作成したり、タブレット端末等の ICT 機器を使用する等状況に応じて適宜

対応すること

二十四 障害の特例等により人前での発表が困難な学生等に対し、必要に応じて代替措置を行うこと

二十五 学校生活全般において、対人関係の形成に困難があったり、意思を伝えることに時間を要したりする学生等に対し、活動時間を十分に確保したり障害の特性に応じて個別に対応したりすること

また、合理的配慮の提供義務違反に該当すると考えられる例及び該当しないと考えられる例としては、次のようなものがある。なお、記載されている内容はあくまでも例示であり、合理的配慮の提供義務違反に該当するか否かについては、個別の事案ごとに判断することが必要であることに留意する。

(合理的配慮の提供義務違反に該当すると考えられる例)

- 一 入学試験や定期試験等において、筆記が困難なためデジタル機器の使用を求める申出があった場合に、デジタル機器の持込みを認めた前例がないことを理由に、必要な調整を行うことなく一律に対応を断ること
- 二 自由席で開講している授業において、弱視の学生等からスクリーンや板書等がよく見える席での受講を希望する申出があった場合に、事前の座席確保などの対応を検討せず、一律に「特別扱いはできない」という理由で対応を断ること
- 三 視覚障害者が、点字ブロックの無いイベント会場内の移動に必要な支援を求める場合に、「何かあったら困る」という抽象的な理由で具体的な支援の可能性を検討せず、参加や支援を断ること
- 四 学生等が、支援者と共に更衣室を利用することを希望した場合に、空いている教室など代替施設を検討することなく、設備がないという理由で対応を断ること

(合理的配慮の提供義務に反しないと考えられる例)

- 一 オンライン授業の配信のみを行っている場合に、オンラインでの集団授業では内容の理解が難しいことを理由に対面での個別指導を求められた際、字幕や音声文字変換システムの利用など代替措置を検討したうえで、対面での個別指導を可能とする人的体制・設備を有していないことを理由に、当該対応を断ること（事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないことの観点）
- 二 図書館等において、混雑時に視覚障害者から職員等に対し、館内を付き添って利用の補助を求められた場合に、混雑時のため付添いはできないが、職員が聞き取った書籍等を準備することができる旨を提案すること（過重な負担（人的・体制上の制約）の観点）
- 三 発達障害等の特性のある学生から、得意科目で習得した単位を不得意な科目の単位として認定してほしい（卒業要件を変更して単位認定をしてほしい）と要望された場合、不得意科目における環境調整や受講方法の調整などの支援策を提示しつつ、卒業要件を変更しての単位認定は、自大学におけるディプロマ・ポリシーに照らし、教育の目的・内容・機能の本質的な変更にあたることから、当該対応を断ること（事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないことの観点）

さらに、環境の整備は、不特定多数の障害者向けに事前的改善措置を行うものであるが、合理的配慮は、環境の整備を基礎として、その実施に伴う負担が過重でない場合に、特定の障害者に対して個別の状況に応じて講じられる措置である。したがって、各場面における環境の整備の状況により、合理的配慮の内容は異なることとなる。合理的配慮の提供と環境の整備の関係に係る例は、次のとおりである。

(合理的配慮の提供と環境の整備の関係に係る例)

- 一 障害者差別解消の推進の図るための役職員への学内研修を実施（環境の整備）するとともに、役職員が、学生一人一人の障害の状態等に応じた配慮を行うこと（合理的配慮）
- 二 エレベーターの設置といった学内施設のバリアフリー化を進める（環境の整備）とともに、肢体不自由のある学生等が、実験室等で実験実施の補助を必要とした際に、その補助を行うティーチングアシスタント等を提供すること（合理的配慮）
- 三 障害者から申込書類への代筆を求められた場合に円滑に対応できるよう、あらかじめ申込手続における適切な代筆の仕方について研修を行う（環境の整備）とともに、障害者から代筆を求められた場合には、研修内容を踏まえ、本人の意向を確認しながら担当者が代筆すること（合理的配慮）
- 四 オンラインでの申込手続が必要な場合に、手続を行うためのウェブサイトが障害者にとって利用しづらいものとなっていることから、手続に際しての支援を求める申出があった場合に、求めに応じて電話や電子メールでの対応を行う（合理的配慮）とともに、以後、障害者がオンライン申込みの際に不便を感じることをないように、ウェブサイトの改良を行うこと（環境の整備）
- 五 講演会等で、情報保障の観点から、手話通訳者を配置したり、スクリーンへ文字情報を提示したりする（環境の整備）とともに、申し出があった際に、手話通訳者や文字情報が見えやすい位置に座席を設定すること（合理的配慮）